

施設 長 様
微生物部門担当者 様

公益社団法人 滋賀県臨床検査技師会
精度管理委員会委員長 山出 忠彦
精度管理微生物部会代表 遠藤 昭大

2019 年度 微生物精度管理 実施説明書

【1】 試料について

- 1) 試料は感染性検体容器(BioPack2)に入っているので、到着後すぐに内容をご確認下さい。
- 2) 塗抹検査のみ参加の施設は、封筒内にスライドが A、B 各 2 枚ずつ入っています。

(確認内容) 模擬塗抹標本(A、B)	<u>2 検体 (塗抹検査 標本 A・B)</u>
模擬検体	<u>3 検体 (試料 No. 1～No. 3)</u>

(注) 試料は到着後できるだけ早く処理の上、培養して下さい。すぐに処理できない場合はそのまま冷蔵保存し、当日中に培養してください。

《 各試料の取り扱いについて 》

以下の各試料の取り扱いに従い、症例に示す検体の由来を考慮して検査を実施して下さい。

塗抹検査 (標本 A・B)

試料(標本)は **2 検体**です(スライド標本 A、B 各標本 2 枚ずつ)。

塗抹・メタノール固定した標本です。グラム染色を実施して下さい。回答後に封入して標本 A と B それぞれ 1 枚ずつ容器に入れて返却して下さい。

※封入剤は必ず十分に乾燥させてからスライドケースに入れて下さい。

試料 No. 1

試料はカジトン培地に接種しています。試料の由来を考慮して分離培養を行って下さい。

試料 No. 2、3

試料はペレットです。

ペレットを約 0.5 mL の増菌用液体培地に加え、滅菌綿棒などでペレットを砕いて水和させて懸濁液を綿棒に十分浸して下さい。試料の由来を考慮の上、必要な培地に塗布し培養を行って下さい。また、培養後の菌量が少ない場合もあるため、必ず増菌培養を行って下さい。

【2】 症例

＜塗抹検査 (標本 A・B)＞ (評価対象)

標本 A 患者背景

80 歳台男性。基礎疾患に 2 型糖尿病あり。誤嚥性肺炎にて救急搬送され入院。誤嚥性肺炎による頻回の入院歴があることから、中心静脈カテーテルの留置および ABPC / SBT の投与により解熱し、経過は良好であった。しかし再度、発熱が見られ、MEPM が投与されるも解熱せず、発熱時に採取された血液培養が 2 セット好気ボトルのみ陽性となった。

問題：陽性となった血液培養の培養液を塗抹し、メタノール固定したスライドです。グラム染色を実施し、染色性、形態、推定菌名および臨床に伝えるべきコメントがあれば回答して下さい。

標本 B 患者背景

生後 8 ヶ月の男児。5 日前より鼻汁、咳嗽、発熱があり、かかりつけ医にて去痰薬を処方されていたが改善せず、紹介受診された。バイタル測定を行ったところ BT:39.5℃、SpO2:86～88%であり、レントゲンで両側肺下野に軽度浸潤影を認めたため、肺炎疑いで入院加療となった。入院後、輸液のみで熱型観察を行っていたが、翌日になって入院時に採取した血液培養が培養後 25 時間で陽転した。また、同日採取された喀痰からも同一菌の発育が認められた。

問題：陽性となった血液培養の培養液を塗抹し、メタノール固定したスライドです。グラム染色を実施し、染色性、形態、推定菌名および臨床に伝えるべきコメントがあれば回答して下さい。

＜同定検査または同定・感受性検査(試料 No. 1～No. 3)＞ (評価対象)

試料 No. 1 (評価対象)

46 歳男性。朝から激しい腹痛、下痢(少量の血便)と嘔吐で受診。その時に採取された下痢便の検体です。この菌について同定検査を実施して下さい。同定過程および同定菌種を回答して下さい。また必要があれば報告コメントを記載して下さい。

試料 No. 2 (評価対象)

80 歳女性。糖尿病にて通院中。前日からの発熱、倦怠感を主訴に救急外来を受診。血液検査にて白血球数、CRP の上昇、尿定性検査にて白血球数(3+)を認めたため尿路感染症が疑われ尿培養および血液培養 2 セットが採取された。翌日、血液培養が 2 セットすべて陽性となり尿培養からも同一の菌が検出された。試料は上記血液培養から検出された菌です。同定検査を実施して下さい。同定過程および同定菌種を回答して下さい。また必要があれば報告コメントを記載して下さい。

試料 No. 3 (評価対象)

7 歳女児。基礎疾患は特になし。1 週間前より鼻汁、感冒症状があったが対処療法にて様子を見ていた。今朝より意識障害、傾眠傾向があり、家人が救急要請。血液培養採取後、腰椎穿刺施行、細胞数およびその他検査所見から細菌性髄膜炎と診断された。

試料は髄液から発育した菌です。同定検査および薬剤感受性検査を実施して下さい。薬剤感受性検査は、同定菌種、臨床情報も考慮した上で、指定薬剤 Penicillin G (PCG)、Cefotaxime (CTX)、Ceftriaxone (CTRX)、Cefepime (CFPM)、Meropenem (MEPM)、Vancomycin (VCM) の中から日常測定している薬剤について実施し、その結果および報告コメントを記入して下さい。

【3】各試料の報告内容と注意事項

- 1) 各試料はすべて **1 菌種**です。
- 2) 塗抹検査(標本 A・B)はグラム染色を実施して下さい。

設問に回答した後に封入し、**A、B それぞれ 1 枚ずつ**を容器に入れて返却して下さい。

※標本には必ず施設名を記入して下さい。

※封入剤は必ず十分に乾燥させてからスライドケースに入れて下さい。標本とケースが接着し、標本が取り出せなくなります。

※スライド標本を破損した場合は大津赤十字病院検査部 遠藤まで連絡をお願いします。

- 3) 試料 No. 1 は同定過程・同定菌種および報告コメントを記入して下さい。
- 4) 試料 No. 2 は同定過程・同定菌種および報告コメントを記入して下さい。
- 5) 試料 No. 3 は同定過程・同定菌種・薬剤感受性検査結果および報告コメントを記入して下さい。

※薬剤感受性検査結果はカテゴリー(S、I、R)および実測値(MIC 値または阻止円径)を報告して下さい。報告薬剤は Penicillin G (PCG)、Cefotaxime (CTX)、Ceftriaxone (CTRX)、Cefepime (CFPM)、Meropenem (MEPM)、Vancomycin (VCM)の中から日常測定している薬剤について回答して下さい。

※薬剤感受性検査に使用した培地、培養条件、使用パネル等も記入して下さい。JAMT-QC での回答入力の際、回答選択一覧にない薬剤プレート、また、培養条件等については「微生物部会精度管理アンケート」に記入して下さい。

- 6) 模擬検体の取り扱い、保存、廃棄などには十分に注意して下さい。

【4】実施方法について

日本臨床衛生検査技師会の HP にアクセスし、「臨床検査精度管理調査内」の「JAMTQC 参加施設向けシステム」より、施設番号・パスワードを入力してログインして下さい。回答入力画面の右上にある「手引書」より、「微生物」の PDF を開き、「試料の取り扱い・実施方法」に従って実施して下さい。

【5】 回答締め切り日

1) 2019 年 8 月 23 日(金) 回答期限厳守

2) 返送内容

- ・ 標本ケースと封入済のグラム染色標本(A、B 各 1 枚ずつ)
- ・ 感染性検体輸送容器(BioPack2) ※缶の容器も必ず一緒に返却下さい。
- ・ 微生物部会精度管理アンケート ※JAMT-QC の手引書よりダウンロード

以上 3 点を確認の上、下記の “問い合わせ先” まで返送をお願い致します。

【6】 報告書記入、結果報告

1) JAMT-QCでのサーベイ結果報告

日本臨床衛生検査技師会のHPにアクセスし、「臨床検査精度管理調査内」の「JAMTQC 参加施設向けシステム」より、施設番号・パスワードを入力してログインして下さい。検査分野より“微生物”を選択し、それぞれの項目について各測定結果、回答、必要事項等を入力して下さい。入力後は必ず「保存して閉じる」もしくは「保存して次の項目へ」、「保存して前の項目へ」をクリックして下さい。

2) JAMTQCでのシステム不具合により回答入力困難になった場合の結果報告方法

滋賀県臨床検査技師会 HP にアクセスし、「2019 年度滋賀県検査精度管理ページ」より、微生物部会の報告用エクセルファイルをダウンロードし、メールに添付の上、ご報告お願い致します。メールの送付先は kensabu2@otsu.jrc.or.jp (大津赤十字病院検査部 遠藤昭大宛)で、件名は「2019 年度滋賀県精度管理微生物部会報告書」として下さい。

(注意) 回答締め切り後の入力および変更はできませんので、誤入力、入力忘れ等のないように十分注意して下さい。また、各施設において回答内容の控えも必ず保管しておいて下さい。

<問い合わせ先>

〒520-8511 大津市長等一丁目 1-35

大津赤十字病院 検査部

遠藤 昭大 TEL 077-522-4131 (内線 2258)